慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	共産主義の経済的基礎に就て(上)
Sub Title	
Author	伊藤, 秀一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.5 (1924. 5) ,p.738(118)- 754(134)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240501-0118

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

と共に交換を了し、 を絕つに至れり。 核に松坂銀札の流通も全く

第五章

職米等のこと迄論述せざるべからず、 密接なる關係あるものにして、詳細にこれを述 だ公開する運びに至らず、 際限もなきことなれば啻に銀札のことのみに限 に限られたるものにあらざるのみならず極めて るが、紀州藩と三井窓との關係は單にこれのみ 聞も松坂銀札に關するもののみに限れるものな んとすれば自ら御用金、物産その他、 混同して論せるもの多々とありしここなり。 一言注意すべきことはこの松坂銀札 以上述ぶる所は松坂銀札の大體の沿革なれ 其他はこれを他日の研究に貽したり。 緒言にも述べたる如く、 大なる誤謬にして殊に松坂銀札は普通の藩 而かもこの論文の範 三井家の文書は未 を若山札 Da 金 くては 只茲

> 對照すれば大に

> 趣を異にするものあり、 札と異なり之れに對し の五ケ國融通は松坂銀札をして特筆すべき興味 國共通融通を計る等、 ある點なれば比較的詳説したる次第なり。 が特別の方法を講じて造り繰りせし等又五ケ てれを他の諸藩札と比較 て爲替組なり、 三井組な 而して

(大正十二年四月稿)

共産主義の に就て(上) 經濟的基礎

Kritik der politischen Öekonomie) の序文に於て 彼が研究の指南車 Marx が一八五九年の 著作「經濟學批判」(Zur (Leitfaden) となれりと自稱

3 所の唯物史観の形式を掲げ、

て決して顚覆する事なく、且つより高度の新生 於て餘地ある限りの發達を爲し遂ぐる以前に於 件づける。」(Vorwort S. 成するものである。物質的生活の生産方法は一 應する生産關係に入り込む。此等生産關係の總 的意識形態が之に適應する所の真質の基礎を形 之れに取つて代る事がない。」(S. 關係は其のもの、物質的存在條件が古き社會 Ŀ は ち彼等の物質的生産力の一定の發達階段に適 一の社會組織は總ゆる生産力が其の組織内に 内に於て孵化せられざる以前に於て、決し 社會の經濟的構造、即ち法制上及び政治上 社會的、 層建築の據つて以つて立ち、 人類は彼等の生活の社會的生産に於て一定 政治的、及び精神的生活過程を條 彼等の意志より獨立したる關係、 55) を言ひ、 又一定の社會 更に又

> して此 をなすものである つて、其の唯物史觀の せる一聯の 會 質に 句 は普~ Marx 乃至共産主義論の理論的 が社會進化考察の根基であ ふ事が出來る。 公式は又直 知せらる \所であ ちに資本主義 Š 根

題の生 來りし社會組織が却て之が發達を妨害する る限りに於て換言せば其の經濟組織が生産力の 關係との適合破れ、 **發達のため好適の關係に在る限りに於て何等問** 總和である。 が其の時の生産關係、 生産力強達の程度に適應せる一定の生産關係の 上に構成され 礎は經濟組 凡そ此の公式の説く所に從へば社會の眞 而して或時代の經濟組織とは必ず其の時の ずる事なきも、 織にして、 斯くて或時代の生産力の發達程度 たる上層建築に過ぎざるものであ 從來生産力の發達を助長し 生産力漸く發達して生産 從つて經濟組織と調和す 法律政 治等は其の基礎の の基

(七三九)

超線に代つて、その發達せる生産力に適應する期線に代つて、その發達せる生産力に適應する期線に代つて、その發達せる生産力に適應するが表して崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がして崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がして崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がして崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がして崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がして崩壊する事なく、從つて新しき社會組織がある。

は、蒸氣及び新なる機械が舊き製造業を大工業に其の因を 發する 大工業の別語の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の發達の度合が大工業組織の下に於ける生産力の資本主義經濟組織の特徴は産業革命は、蒸氣及び新なる機械が舊き製造業を大工業は、基氣及び新なる機械が舊き製造業を大工業は、基氣及び新なる機械が舊き製造業を大工業は、基本の関係を表現した。

schaft. S. 界の、又之を招致せる其人自身の意志又は行動 業も亦 より獨立せる事質の内に存在する。」 きものではなく、 の矛盾は人間の頭腦の内に發生したる矛盾即ち 突するに至った 人間の原罪と神の正義との間に於ける矛盾の如 のである。 る爲めの資本家的形態に對し旣に成長し過ぎた 生産方法が自ら其の内に跼蹐する所の限界と衝 程度に迄發達した。併し乍ら嘗て製造業及び其 の封建的緊縛と確執するに至りしが如く、大工 の影響の下に次第に發達せる手工が、 に變革せる以來未曾有の速度を以つて未曾有 Eugen Dührings Umwälzung der Wissen-287) 其の充分なる發達の結果、 而して生産力と生産方法との間の此 寧ろそは客観的の、 新しき生産力は之れを利用す 資本主義的 (Engels: 吾々の外 同業組合

斯くて生産力と生産方法との矛盾確執は、必

力となり、 反對に、生産力は 家的所有關係の促 存在を脅威しつトあるの事實を示せば足る。: 恐慌が其の週期的襲來に依つて全資本家社會の の生活條件なる所有關係に對する現代の生産力 現代の生産關係に對する有産階級及彼等の支配 のてある。過去數十年の間工業及商業の歷史は 最早や統御し能はざるに至れる魔術 係、資本家的所有關係、近世資本家的社會 を以て喚起せる所の資本家的生産及び交通關 命の 然的 の叛逆の歴史に他ならない。其の事は商業上の も彼自ら呪文を唱へて喚び寄せたる下界の力を 社會の用に供せらる可き生産力は最早や資本 到來を導くものである。即ち に資本主義的社會組織の崩壊と社會主義 も偉大なる生産手段及び交通手段 却て此 此等の關係に對し餘りにも有 進に役立たなくなり、 れが爲めに阻害せらる 所謂 舶 の如きも 寧ろ其 に三至 を魔法 は、 へらく 革

ifest. として使用することに基 ゆる生産機關をば結合的社會的勞働の生産機關 同的にのみ便用し得る勢働要具への轉化、有ら る技術的應用、土地の計劃的利用、勞働要具の共 大する規模に於ける協業的形態科學の意識的な **製資本家の收奪と提携して勞働行程の絶えず擴** 日く「此の集中換言すれ 「資本論」中有名なる左の一句は之れを要約して れたのである。」 つた。 せる武器に今や有産階級其ものに對して向けら ・・・有産階級がそれを以つて封建制度を地に倒 的諸關係は之れによつて生産せられたる富を包 含する爲めには餘りに狹隘となつたのである。 る毎に資本家的社會の全體を無秩序に陷れ資本 所有權 Revolutions-Bibliothek 而して此等の生産力は其の障碍を排 の存在を危殆に瀕せしめる。 → (Das Kommunistische く其節約、 ば少數資本家に依る多 Zr. Ś ល 各國民が 8 資本家 Man-除す

(七四一) 雑 録 共産主義の經濟的基礎に就て

五號

譯文に (Marx: Das Kapital. Hamburg. S. 728 高國氏 的私有の吊鐘は鳴る。 點に到達する。資本制的外殼は破裂する、資本制 働の社會化では、其資本制的外殻と一致し難さ る生産方法の桎梏となる。生産機闘の集中と勢 資本獨占は之れと共にまた其もとに開花繁榮せ 増員しつくある勞働者階級の反抗が増進する。 の機構に依つて訓練、統合、組織さるい のである。が又それと共に、資本制生産行程自體 えず益々減少すると共に、 有らゆる 壞頹 際的性質等が發達して來る。斯る轉形行程 場の網に絡まる事 據る、 利益を横奪獨占する大資本家の敷が 資本論 第一卷、第三册) 搾取などの量は益々増大して來る 收奪者は收奪される。」と それと共に又資本制度 窮乏や。 奴隷狀態 絶えず

錬するのみならず其の武器を揮ふ可き人々即ち有産階級は営に自らを死に致す可さ武器を鍛

munistische Manifest. S. 9) 今や收奪者を收奪するの任務は無産階級の歴史的使命である。時期るの任務は無産階級の歴史的使命である。時期である。「無産階級は國權を掌握し生産手段を先不過有に移し」(Engels: Herrn Eugen Dühring. SS. 301-2)茲に資本主義的社會組織は其の終息を告ぐるのである。

Albert Form

Bolschewismusに依つて高唱せられたる革命的無 さることの論考を含むもの決して妙なからずと はるくに非ずしてい は屢々主張せらるゝ所であつて、 制度より共産主義的社會への る。然るに他方 Marx べられたる資本主義的社 以上は Marx の社會進化學説の基調の上に述 突如 の學說中資本主義的 會組織 たる飛躍に依 推移は の點を敷衍强調 崩壊の徑路であ 殊に主さして 漸進的に行 つて遂行 社會

其の革命的獨裁の條條を其の社會進化學說とは 引用せられ深く Bolschewismus 理論の根蒂とな Lesestücke. Bd. XII. SS. 154-5) ば凡そ Marxism 經濟學說の吾人に敎ゆる所に依 つて居るのである。併し乍らMarxの體系に於て IX, 1890/91 所載。Diehl u. Mombert, Ausgew. 決して矛盾 撞着する ものに 非ずとは Kritik des Gothaer 裁以外の何物でもあり得ない。 渡期を含み其の過渡期の國家は革命的無産者獨 義的社會の 横はる。 て居るのである。就中 Marxが一八七五年五月 假合革命的無產者獨裁の政治的形態を したる書簡中「資本主義的社會と共產 Brackeに宛て 此の時期は之に適應せる一の政治的過 間には一より他へ革命的變革の時期 の主張する要點である。 Programms. Neue Zeit. B. 〜獨逸社會黨の Gotha 綱領 の一句は隨時 (Marx: Zur 何となれ 叉等しく 主

現の根本條件 ではないからである。 社會主義的計畫がより容易に質行せられ、 達に向つて 本主義的に發達せざる國に於ては、 の下に於てのみ新社會實現に對する總ゆる障碍 て斯の如き經濟的發達が著るしく促進せられ、 はないのである。 して共産主義社會 りとせば、 てすど雖も 然かも資本主義社會より 任務を荷負ふ所の無産者獨裁自らが資本主義的 が完全に変除せられ得るが故に、 形態なるが故に主張せらるへのである。 即ち例 共産主義社會への過渡期に於ける必然 無産者獨裁の實現のみにては未だ決 の必然的過程を毫も左 一社會に於ける經濟 たる經濟的發達に へば未だ物質的生産力が充分資 唯無産者の革命的獨裁下に於 への第一歩を印したるもので 換言せば 共産主義社會への經濟 共產主義社會實 上の必然的發展 して尚不充分な 右し得 而して此等の 斯の 如ら發 6 叉其

(七四三) 雑 録 共産主義の經濟的基礎に就て

第十八卷

五號

は其の社會經濟的構造に於ては資本主義社會と 達の階段を四に分ち、近世資本主義的國家(第 一階段)に次ぐ可き無産者獨裁國家(第二階段) ポルシエビズム論に於て Marxism による社會發 るものと云ふ可きである。故に Mautner が其の ncuen Politik und ihre Bedirgungen. Die Ko-) 火川 へるがmmunistische Internationale No. 17. S. 89. 云ふ事とは極めて明瞭である。」(Zur Naturalsteuer, zum いさ云ふ事。 schewiki の領袖 Lenin が無産者獨裁の 的發展の徑路は依然たるものとせらるゝ。Bol 會主 きは言篇なれざも、誠に這般の經緯を説明せ なければ社會主義へ到達する事が出來ないと 未だ社會主義の入口(´゚Tür Ÿ)にも達して居な 經濟的關係に於て、又生産に關して、吾々 Staatskapitalismus")の必要を力説し 且つ、「國家資本主義への進展」("Evolution 载 Nt: 曾 の混 及び未だ達せざる入口を經由して 洧 して、 そは 生産手 現狀の下 绞 以 生

(Mautner. Der Bolschewismus. S. 206)

(Mautner. Der Bolschewismus. S. 206)

で、先つ「資本主義より共産主義への過渡」なる、所である。何となれば其の一章「國家消滅る、所である。何となれば其の一章「國家消滅の經濟的基礎」(Die wirtschaftlichen Grundlagen für das Absterben des Staat)を述ぶるに當つで、先つ「資本主義社會より共產主義社會に至る經濟的

に傾聽しつゝ 其の 大略を 覗はうと 思ふのであ に Marx の所説に遡り、更に前者の祖述する所 ゆくであらうず、 其の階梯の下に人類の經濟的生活は ば各共産主義の二階梯は如何に推移しゆく乎、 産者獨裁の下に經濟的發達は如何に助長促進せ する 高き階梯へと項を分ちて論及せる其の意圖の存 3 項の下に再び無産者 順次共産主義の第一階梯、共産主義のより ハかの問題は姑く後日の考察に譲り、 所極めて明 白であるからである。 私は以下 Lenin の導くが 過載の 意義を鮮 如何に 而して無 成り 然ら 明に 2

pero price (aro at 30

學說に從つてのみ究明し得らるゝの理である。 ば、次いで來る可き共產主義社會の經過も亦右的社會組織崩壞の徑路を說明し得るものとすれ

する最も 而して斯々の方向に變化するといふ事を知つて る如き企ての片影もない。斯々の原因が存在し、 ピアを捏造して知り能はざる事を徒らに推測す 果であるとい
ム事である。Marxに於てはユ 資本主義が自ら産み出したる社會力の活動の結 が資本主義の中に其の起源を持つて居るとい 基礎の上に置かれ得る乎。「そは正に此の發展 然らば共産主義の將來の發展は 然である。」(Lenin; Staat und 發展との兩者に適用するの問 を資本主義の來る可き壞滅と共産主義の將來の る且つ最も内容豐富なる形式に於ける進化學説 故に曰・ の適用である。 歴史的に資本主義から發達するといふ 徹底的な最も完成せる最も熟慮に富め 「Marx かの博物學者が例へば新しき生物 從つて Marx にとつては此理論 の全學説は近世資本主義に對 題を生じたのは自 Revolution S. 如何なる事實の 兼 75) ŀ ል

(七四五) 雑 錄 共産主義の經濟的基礎に就て

邻十八卷

外五號 一二五

先づ共産主義の第一階梯を考察し様う。 題を取扱つて居るのである。」(ebenda SS 75-76)の變種を収扱よが如くに Marx は共産主義の問

と云ふは單に文飾であるに過ぎない。其の眼目 せらるゝやに就いての合理的分析を與へんとす を排して、 全産物を勞働者に」と言ふが如き曖昧なる瞬句 物」(unverkürzte Arbeitsertrag) を受取ると言へ ふ點に存する。 に於てい 兴產 「勞働の全産物」を受取らねばならないとい へらく「社會の全員」と言ひ「平等の權利」 参照)Marx はその「ゴオタ綱領批評文」 主義社會に於て各勢働者は Lassalle の所 勢働者は社會主義の下に 社會主義的社會は經濟上如何に處理 の見解を駁撃する。而して なる語 さて若しも此の「勞働の産物」 Produkts der (Lenin; a. 「勞働の全産 「勞働の Arbeit

あつて、 斯くて全産物中の他の殘部が消費の用に供せら のである。」 是等を控除する事は經濟的必須である。 る生産用 其の量は 生産物の總量である。」 分配せらる、以前に再び次のものが控除せらる る可きものとせらる」。 要する附 次のもの の意味にどるならば、 一部分は蓋然性の測定に依つて決定する くは保險積立 のである。 の部分は 決して公正の觀念から計算せられない 現存の生産用具と生産 る 具の補充部分。第二、 が整除せらるく 加的部分。 生産の混亂等に對する豫備積立金若 (Marx: Zur Kritik. a. a. O. 第一、 金。 固よ … 「勞働全産物」の中から 生産に属せざる一般行政 第三、諸種の災害、 今 組合勞働 H 此の生産物の總量 「併し此れが の社會に比較して著 「第一、費消 の産物は 生産擴張の為に 力に依 .個人問 つて、 Ņ そ 天災地 可きで され 142) して 叉 1:

産者の間に分配さる、所の消費物の部分に到達 者等に 格としての彼に對してい したのである。一私人の資格としての生産者か を其の視野に置ける分配、 に属するもの。……今や始めて我々は、ラ 發達の程度に應じて增加する。第三、 備等の費 派の影響を受けた綱領が思かにも唯之れのみ るとしても、「勞働の全産物」は最早や明に 去られたものが、 充足に向 對する基金、 制限さ も著る 此の部分は固より今日の社會に けらる た様に又「勞働の産物」なる 新社會の發達の程度に伴 即ち今日の所謂貧民救助 大である。 \部分、例へば學校、衞生設 直接又は間接に利益を 即ち社會の個々の生 社會の一員たる資 「勞働の全産物」 そして新社 サー 會

今や消滅する。(ebenda. S. 143)

Marxは語を継いで云ふ。 語は斯くて總ての意味を なる語義の故に批難せらると「勞働の産物」なる 成部分を形成するからである。 社會と異なり、 性質としては現は して居るのではな 物の價値としてい 内部に於 生産手段共有の上に 生産物 0 て生産者は彼等の生産物を交換しな 上に費されたる勞働 人の勞働は最早や間接に 即ち其の生産物の ない。 て、 打建てられ 直接に總勞働總量の構 喪失するの 何どなれ 今日ですら たる組 は茲では生産 ば資本主義 有ゆる物的 である 合社 存在

ある。故に其の社會は經濟的、道德的、智識的義社會がら生れるものとしての共産主義社會で義社會ではなくて、其の反對に今、正に資本主義社會で議論がら發達したるものとしての共産主

(七四七) 雑 鉄 共産主義の經濟的基礎に就て

第五號 一二

ただけ したと する分を控除せられたる後)斯々の勞働を寄興 示すれば社會の總勢働時間は個人的勞働時間の へたるものは彼の個人的勞働量である。 「敵するだけのものを引出すのである。 の形に於て囘收する。」(ebenda. に外観上平等の支配する社會である。 分 彼は 會の總勞働時間中彼によつて寄興せられた 社會の母斑を止めて居る。 から成立 る點に於て、猶、其の胎內より生 形に於て社會に與へたる勞働の同量を、 いふ證書を社會から受取り のものを正確に回收する。彼が社會に與 即ち總勢働時間に於ける彼の持分であ (其の勞働の中から共同的積立金に對 消費物の共同倉庫か 前記の控除の後 つ。 。 各生産者の個人的勞働時間と 從つて個 ら同量の勞働に 彼が社會に與べ 、彼は其の證 S. 144) & t 之を例 出でた 即ち彼 々の生

> 第一階梯と名付けられたるもの)を目標とし (Lenin: a. a. O. S. 48) Marxは此の誤謬を解明して居るのである。」と。 と言ふならば、明に彼の誤謬である。而 量に對する平等の權利」を意味するものである 此れを以つて正當なる分配即ち「勞働産物 に社會主義と稱ばれ Marx によつて共産主義の 乍ら岩しも Lassalle が斯の 如き祉會秩序(一般 して の等

居る。 於て個 勞働以外の何物も與へる事が出來ず、 に商品交換を統制すると同一の原則 なれば變化せる事情の下に於て、何人も自己の Marx それが等價の交換である限りに於て。 成る程内容と形式は變化して居る。 ħ は言ふ前記共産主義 の消費物以外の何物も個人の所有とな である。 の第一階 k (1) が行 消費 又他方に 梯 に於て 物が 何と れて 明か

平等は のである。 はれ 交換は個別的に存在せずして、平均的に る事なく、同時に又、商品交換に 其處では、 勢働と交換せられる。 「故に平等の權利 (即ち ブルジョア的權 於け 商品 の消費者の間に分配さる 所は實際上同質でもなく、 存する」。(Marx: a. a. O. 第十八卷 くて平等の權利は總ゆる權利と同様に、 30 生産者の權利は彼の勞働給付に比例する なる者は未だブルジョア的限界を脱しな **豫想するものである。總ゆる權利の意味** 平等の尺度即ち勞働で測定されるとい の交換に於けると同 されざ、 原則と實際とは最早や相互に確執 既に述べたるが如く の勞働は他 利)は猶は原則となつて居る 此の進步にも拘らず、平等の の形式に於ける同量の 一の原則が 1 範圍内に於 SS. 144-145) 同等でも 一弦では、 於ける等價 行はる 13 のみ行 一形式 て 0 不 ふ 0) す

共産主義の經濟的基礎に就て 不平等なる權利である。凡そ權利なるものは の木質上、 は其の内容から云へば總ゆる權利と同様、 力が暗默裡に承認されて居る。 平等なる個人的天禀從つて又不平等なる實行能 の差別は存在しないが、 ある。茲では總ての者が勞働者であるから、階級 質は不平等なる勞働に對する不平等なる權利で ば尺度として役立たない。故に平等の權利とは 依つて決定せられなければならない。然らざれ を以て尺度となす爲めには、 はより長い時間中働く事が出來る。然るに勞働 る。其れ故同時間内により多く働く事が出來、或 は肉體的にも精神的にも他の者より優越して居 ある。故に不等の權利なるものは、 侵犯であり、 た人々に 同一の尺度の適用に於てのみ存在 且つ不正である。 同 一の準縄を適用する 自然的特権としての不 其の延長と弧度に 故に平等の權利 即ち 質 ح は平等の () 事

1

であ み認められ ふなら。」 (ebenda. 或者は他の者よりも多くの子供を持つて居る。 給付と云ふも、 他色々の事情が存在する。故に平等なる勞働 藏からの平等の分前と云ふも、 てのみ平等の尺度で測定せられ 不平等であるから)同一の視點の下に置か 。然るに不平等なる個人は(同 つてはならない。 或者は他の者より多く受取 或る勞働者は結婚し他の者は未婚である。 即ち或一定の方面から観察さる へば此の場合總ての人は勞働者をしての の不都合を避けんが爲めに、 も富祐であるといふ様な事 其の他の事は一切無視され 又其れに準じて消費物の社會的 其は不平等でなけ h 一人に非ざる限 得るに過ぎな 實際上に於て が生じる。 権利は 或者は 3. 人限りに n 更に 平等 ばな 他の n

'n 社會的生産に提供したる勞働量 1 比 例

ては、 産主義 關する Lassalle の韜晦的言説を峻拒し、 者を搾取すると云ふ事が不可能になる。 が依然として存するのである。 產主義社 するの一事に横はる所の、 指示して居るのである。然るに其の欲望に應せ 儀なきに至れる共産主義社 は徹頭徹尾此の主旨に準據して、平等で正義に 財産として所有し能はざるが故に、 事能はずして、 人が生産用具を所 7 難しどは Marx の確信する所である。 ふ制度の存する限り、 給付されたる勢働量に應じて消費財 其の必要とする 生産用具即ち工場、 の第一階梯は未だ正義と平等を質現する 會を以 富裕の相違。 2 てして 有するの不正を排除するの除 简 費財の分配を受くる 頂 機械 より大なる不正は共 5 會發達の徑路 及不公正なる相違 不平等と不正 VC 之れ 唯此の階梯に於 土地等を私有 一人が他の を廢 先づ私 Marx 故に共 を茲に を分配 止 は

て條件づけられ なるもの 於て存 「併し此 はざ 權利の不平等は未だ排除せられないのである。 登る 5 付されたる勞働量に應じて分配さる 共有に移つたといふ事だけでは生産 たる 資本主義社會から長き分娩の苦痛の後に生 るものであ 在する所の分配上 は出來ない。」 を (ebenda. S. 145) は其の社會の經濟狀態及び其れに依 此の階梯に於ては不可避である。 の不都合は、 たる社會の文化發達よりより高 30 換言 共産主義社會の第一階梯 の缺陷 th ば生産手段が とブル ジョア的 物 > 限りに が其の 全社會 權利 つ

のみ、廢止せらるしのである。ブルジョ る經濟的變革に應じて、 廢せられて終ふのではなくて、既に達せられた 社會の第一階梯ではブルジョア的權利が完全に は生産手段を各人の私有として認容する。 故にLeninは之を説明して謂へらく「共産主義 即ち生産手段に關して ア的權

共産主義の經濟的基礎に就て 陷であるが併し共産主義の第一階梯 5, 上不同 可避であるさ。 止しない。Marx 同量の消費財を分つ所のブルジョ する。 拘らずては未だ共産主義ではな 會主義的原 働給付に對 會主義的原則は既に實現せられる。 會主義 Ui アに住んで居るのでなければ、人 する所の統制者として、独、 會各員の間に勞働を分割し、 てのみブル 崩壊で共に直ちに何等 の爲めに勞働す可きの理を悟る 等に勞働給付に對 「勞働せざる者は食する能はず は其等 則も亦既に實現せら て社會的 ジ を共有に變へ 何となれば岩しも我々 ョア的權利は廢さる」。 は言つて居る、 生産物の し 法律的統制 30 同等でない各人に 6 n 3 同量 此の權利は殘留 且 ア的 つ生産 N だらうと 此は、 n 1 「同量の勞 を此の社 が資本主 なく **が** ユ それにも 於 は一の飲 権利を廢 L 0 べては不 此の社 然 物を分 範圍に して 實際 るに

(七五二)

Ξ

らないのである。」(Lenin: a. 信せられない。 如き變化に對する經濟的基礎を準備しては居 質に資本主義の廢止は直ちに斯 ρ 0 SS. 85-86)

主義と呼ばれて居るものが Marx の以て共産社 從つて國家の存在を必要でする。 、處には 主義の科學的相違は明瞭である。 の社會主義的社會である。故に「社會主義と共 ち進化學説を 一一種の賃銀制度は依然として存 彼が茲でも亦一貫して其の唯 3 社會の殘滓を留 經濟的生活に對する法律的統制行は ~を雖も分配上に於ける資本主義的法 若くはより低き階梯 Marx の此の説明の重 刑 むる。生産手段 は猶多くの點に して 此は質に調 と名付くるも 物論的辨 一般に祉命 量大なる意 以の共有質 在する。 て資本 T 會 3 n

> 々は茲に 充分成熟しては居らない。そして資本主義の傳 ல் (Lenin: a. き共産主義の下に殘存し得る」。(ebenda. S. 90) 從つて或一定時に於て、 保留する所の共産主義 と斷する所以である。 のみならず資本家的國家すらも、 機關なくしては何等の意義がない 利なるものは法律的規範の遵守を張制する所 利は必然的に資本家的國家を豫想する。 を見る。 統及び痕跡を全然免る 「此の第一階梯に於て共産主義は未だ經濟的に 消費財の分配に關するブルジョ 「狭隘なるブル a. O. S. 89) と述べ更に進ん 第一階梯の興味ある現象 \事が出來ない。 單にブルジョア的權利 ジ ヨ ア的權利思想」を 資本家階級な からである。 凡そ權 故に我 ア的權

民は武装的勞働者に依つて形成せらるゝ國家の 被雇傭者に變じる。 さて、斯の如き經濟組織の下に於て、總ゆる人 總ゆる人民は。 全國民の 國

要なる階段に過ぎないのである。」 (ebenda. 想でもなく我々の窮極目的でもない の工場となるであららが、併し、無産階 會は不等の勞働と不等の賃銀を持つ一の 弦に止まる可含ものではない。即ち曰く 本主義の倒壊及び搾取者の排除に依つて全社會 擴張する所の此の工場紀律は決して我々の理 及勢働者となる。其處では單に總ての 題である。然るに Marx の共産主義は の勞働を給付し、勞働の 企業合同 而して平等の賃銀を受取るといふ事のみが 搾取の卑俗と低劣を急激に一 して (Staatssyndikats) より 遙かなる 前進の 爲めに必 日課を正しく に於け 0 掃せんが 其れは資 る被雇傭 級が資 官衙 決し 者が平 「全祉 SS. T

ば社會的進化の必然的階段なるも、 斯の如く共産主義の第一階梯は Marx L 從へ 此の階 梯の

全班三

艞

共産主義の經濟的基礎に就て 會制度へを發達してゆくのである。」 れに續いて來る時期の社會主義は共產主義 勞働に轉用される。 階級の解體、勞働敎育、新時 を益促進する。 浪費せられたるエネルギーの蓄積は今や生産的 争、戰爭、軍國主義、恐慌の娑除、競爭等の爲めに 米曾有の速度を 以て 發展 する。 30 經濟的合宜の原則に依つて分配さる、生産力は 高さ共産主義 社會が 質現 するに 過に伴ひ、 下に於て「國家的分配に依つていはなくして を以てせ の强制手段が死滅するに及んで茲に自ら、 下に 的報償分配の性質を失ふ。無産者獨裁及 速かに進出する所の社會的經濟的發展の經 ば總ゆる强制の廢除せられ Bolschevismus の一領剤 Bucharin の言 全生産過程の合理化は生産力の増 今や一切の障碍が廢除 分配は「給付に應じて」といふ肌 嘗ては 階級闘 至るものであ せられ、 たる状態の び此

Oekoncmik der Transformation Speriode. S. 196)

英國穀物市場の史的考察(三)

局 木 壽

地域が既に存在するに到れる、第十三世紀以後 て發生したので る穀物質 して一の差別的價格を持つ。此一の差別的價格 3 向ふ張き傾 或る地域を總称する。 容易迅速に均等ならんとする脳き傾向を有す 現は 引が多數となり組織的となり 格に關する統計的資料も此地方的市場 點より見れば、 n る 向の存せる地方的穀物市場は あるい 而して此時代より以後の穀物價 此地方的穀物市場に於け 從て他 或る貨 O) たる時に 市場地域に 物の價格 始め 觳

に若くものはない。最も廣き面積を有せる 反してい ける諸種の穀物に費さるる耕地面 る。是が最良の證左としては、諸々の 英國民が常食としたる主要穀物であつた (Durham) さ一般に信むられんとしてる。 而も質に之に 頃の時代に於て 物に比して遙かに豊富なるがためと、 格を見る場合に於て、専ら小麥のみによる。 て)英國民は粗惡、 る。第十二世紀中葉より、第十四世紀末に到る して消費されて居た。最も古き時代より小麥は 小麥が日常消費の主要穀物で あつ たから し一には、 又即ち人民の主要食糧は小麥であつた。 其の北部地方に於て之と共に熊麥も食料と 英國の大部分に 亘り、北は ダアハム の州に到るまでも農業の主要生産 小麥價格に關する資料が他の種の (即ち Plantagenets の時代に於 下等の穀物を常食をしたり 積の大小如 所領 又一には 地に於 のであ 作物 であ

領地十一所の中、三箇所は Surrey に、一はKent とは明である。 年略々四四% 三五%、三九%、三五・五%等であ ○・五エーカー。第四年には五一○四分ノーエー 年には一二〇六エーカー。第二年には一三一五・ リー1 1 Cambridgeshire リーBucks, Warwickshire 年には一四四〇四分ノーエーカー。にして、其 十一箇所を其自らの資本にて耕作した。其所 ーであつた。 、第二年に四六〇エーカー、第三年には、 小麥を蒔かれたるは、 があつた。其穀物耕作せられたるもの、 主 Hants に各一。Oxfordshire には二箇所の所領 オックスフォー 要産物 耕作面積に於て小麥に次ぐ作物は燕麥なれ 第十八卷 力 ー。第三年には一四五七エーカー。 であり、 (七五五) 例令、 即ち其面積の比率より見れば各 ドの Merton College は其所領地 又最も廣き市場を有せるこ 第一年に五二七五 英國穀物市場の史的考察 六年の四年 第一 一力

用された。 五.十エー は小麥製 5 りしてどを知ることが出來る。 糧としての小麥の生産が農事耕作の主要部分な て微々たるものであった。 用さしてい 格に關する資料のみが最も豐富なることは、吾 たのであ れたれざも、 麥も燕麥を同じく凡そ三百五 僅少にして主として馬糧として用ひられた。大 人をして之のみを以て以下の敍述の基礎となさ しむるに充分である(Rogers:Work and Wages, 格の高 作れる麥酒に (或は他の穀物を混ぜて)のバンさ、大 カー内外に 部英國の住 其他には 又一部は 斯くの 其用途は其種類に 低は主要なる農業的利害を形成し して他の穀物に比して極め 如き事情に加ふるに小麥價 よつて生活して居た。即ち 裸麥あれざも其耕作面積は 民の 家禽類の飼料として使 食糧 之等によつても、 となること極 1 よりて麥酒製造 力 世英國の住民 内外に め 食

第五號 一三五